別表を證明できる。	斗目番号 00	学校 開講年度	令和02年度 (2	020年度)	授業科目	都市地域解析論		
提出・整								
### 2015	₩ T/ 4E + I	0017			区分 専門 / 選択			
###		 業	単位の種別と単位	立数 学修単位	立: 2			
20mm	引設学科 社	会基盤工学専攻	基盤工学専攻		専1			
日本校日	開設期 前	期		週時間数	2			
部画を表しいる。	教科書/教材 配	布プリント等						
1. 原年条件のISの課金、資料特別、利用法を認明できる。 2. 受認のは、高素的的な分析および解析できる。 2. 受認の地に関わる語感について、分析・解析を適した解決策の検討ができる。 3. 受認の地に関わる語感について、分析・解析を適した解決策の検討ができる。 3. 受認の地に関わる語感について、分析・解析を適した解決策の検討ができる。 3. 受認の地に関わる語感について、分析・解析を適した解決策の検討ができる。	旦当教員 渡	辺 力						
2. 公式による最齢的は分析および解析できる。	到達目標							
理想的区型論上ペリルの目立	2. GISによる基礎的な分析	および解析ができる.		ができる.				
福岡百日	レーブリック							
開送を提明できる。		理想的な到達し	理想的な到達レベルの目安		ベルの目安	未到達レベルの目安		
#四項目2 ができる。	平価項目1	用法を説明でき			3.	用法を理解できていない		
	平価項目2	ができる.		ができる.		ができない.		
# 第3 ・	平価項目3	, 分析・解析を	わる課題について 通じた解決策の検	, 分析・解析を注	つる課題につい 通じた解決策を	提 │, 分析・解析を通じた解決策を提		
ABEE学書・教育別達目標 (B-2) 教育方法等				•		•		
関	学習・教育到達目標 (B-2) ΔBFF学習・教育到達日増	(B-2)						
関要		(5 4)						
受業の進め方・方法	研要 G:	GIS(Geographic Information System)は地理空間情報を扱い、地理的な課題を解決するために計画系分野をはじめとして様々な分野で利用されている。本科目は実際の都市に関わる課題について、空間解析手法を習得するとともに分析・解析を通じた解決等の検討ができることを目的とする(B-2)						
理点	受業の進め方・方法 理	Sのソフトウェア操作に。 ,利用に関して内容の理		験することにより ・事項の定着を図), 単に概念的 るために課題を	な理解ではなく,実際の解析,データ処 課すが,基礎知識の復習に留まらず実		
連盟情報科学 GISスタンダード」 浅見泰司, 矢野桂司, 貞広幸雄, 湯田ミノリ編 (古今書院) [空間解析入門] 貞広幸雄, 山田育穂, 石井儀光編 (朝倉書店) [2回 1. ガイダンス・総論 [こして理解できる] [30] [30] [30] [30] [30] [30] [30] [30	1	社会基盤工学専攻 学習	・教育到達目標の評価					
特別の発情報料料学 GISスタンダード 浅見泰司 矢野桂司 頂広幸雄 湯田ミノリ編 (古今書院)		末試験(B-2)(50%),課題	멸(B-2)(50%)					
図 授業内容 週ごとの到達目標	1 1	助教材・参考書等: 地理情報科学 GISスタン	ンダード」 浅見泰司],矢野桂司,真原	広幸雄, 湯田三	ノリ 編 (古今書院)		
担選		空間解析人門」 負広辛	雄,山出育槵,石开镇	裝光 編(朝倉書店	i)			
15回 1. ガイタン人・総画 について理解できる. GISデータの入手と加工方法,および活用の方法について理解できる。 3週 3. データの可視化と集計単位変換 データを可視化する方法やメッシュデータへの変換といった集計単位変換 データを可視化する方法やメッシュデータへの変換といった集計単位変換について理解できる。 区画法、最近隣距離法、K関数法といった点データの空間パターンについて理解できる。 ラスターモデルを用いて分析することの利点および地利用の集免性の分析、マルコフ連鎖による土地利用連移について理解できる。 人口推計 人口推計の必要性および推計のための各種モデル、コーホート法について理解できる。 7. 空間補間(1) 空間補間の目的および最近隣距離法、逆距離加重法について理解できる。 タ週 8. 空間補間(2) クリボングの基礎的な事項について理解できる。 9週 9. 空間の自己相関 生機下のあるモランの統計量について理解できる。 2回 10. 空間回帰モデル 空間データの特質としての空間的自己相関と代表的な指標であるモランの統計量について理解できる。 10週 10. 空間回帰モデル 空間原生デルと空間回帰モデル 空間原生デルと空間回帰モデル の基礎的な事項について理解できる。 11週 11. ネットワーク分析 グラフ理論に基づくネットワークの性質およびダイクストラ法について理解できる。 13週 13. 人口の分析 グラフ理論に立いて理解できる。 13週 13. 人口の分析 グラフ理論に立いて理解できる。 13週 13. 人口の分析 グラフ理論に立いて理解できる。 14週 14. 経済の分析 第個分析や地理的分布に関する分析手法を理解できる。 15週 15. 土地利用の分析 南側分析や地理的分布に関する分析手法を理解できる。 16週 期末試験 世利用変化の解析手法について理解できる。 16週 期末試験 世別の企画を記述されていて理解できる。 16週 15. 土地利用の分析 16週 期末試験 世別の企画を記述されていて理解できる。 16週 15. 土地利用変化の解析手法について理解できる。 16週 15. 土地利用変化の解析手法について理解できる。 16週 15. 土地利用の分析 16週 15. 土地利用変化の解析手法について理解できる。 16週 15. 土地利用変化の解析手法について理解できる。 16週 15. 土地利用変化の解析手法について理解できる。 16週 15. 土地利用の分析 15週 15. 土地利用変化の解析手法について理解できる。 16週 15. 土地利用変化の解析手法について理解できる。 16週 15. 土地利用変化の解析手法について理解できる。 16週 15. 土地利用の分析 15週 15. 土地利用の分析 15週 15. 土地利用変化の解析手法について理解析を表述されていて解析を表述されていていて解析を表述されていて解析を表述されていて解析を表述されていていていていていていていていていていていていていていていていていていてい		授業内容			週ごとの到達目	標		
1stQ 1stQ 1stQ 2. 地域主向 2. 地域主向	1週	1. ガイダンス・絲	1. ガイダンス・総論		GISを用いて都市および地域を読み解くことの必要性について理解できる.			
1stQ 1stQ 4. 点データ分析 2回版法、最近隣距離法、K関数法といった点データの空間パターンについて理解できる。 2元ターモデルによる分析 2回版パターンについて理解できる。 5. ラスターモデルによる分析 2元ターモデルを用いて分析することの利点および1地利用の集塊性の分析、マルコフ連鎖による土地利用の集塊性の分析、マルコフ連鎖による土地利用の集塊性の分析、マルコフ連鎖による土地利用の実塊性の分析、マルコフ連鎖による土地利用の実塊性の分析、マルコア連鎖による土地利用の実塊性の分析、マルコア連鎖による土地利用の実塊性の分析、マルコア連鎖による土地利用の実塊性の分析。マルコア連解できる。 7. 空間補間の目的および最近隣距離法、逆距離加重法について理解できる。 8週 8. 空間補間の目的および最近隣距離法、逆距離加重法について理解できる。 9週 9. 空間的自己相関 空間データの特質としての空間的自己相関と代表的な指標であるモランの近続計量について理解できる。 10週 10. 空間の帰モデル 空間景色としての空間的自己相関と代表的な指標であるモランの近続計量について理解できる。 11週 11. ネットワーク分析 27ラ理論に基づくネットワークの性質およびダイクストラ法について理解できる。 11週 12. スペースシンタックス理論 2回離構成を定量的に評価する手法であるスペースシンタックス理論にこいて理解できる。 13週 13. 人口の分析 2回縁は大の子に関する分析手法を理解できる。 14. 経済の分析 高圏分析や用地の立地評価に関する分析手法を理解できる。 15週 15. 土地利用の分析 土地利用変化の解析手法について理解できる。 16週 期末試験 15回 15 15 15 15 15 15 1	2週	2. 地理空間情報の	2. 地理空間情報のデータ構造 / データ					
1stQ 1stQ 5. ラスターモデルによる分析 空間パターンについて理解できる。	3週	3. データの可視化	3. データの可視化と集計単位変換		いった集計単位変換について理解できる.			
5.	-	4. 点データ分析	. 点データ分析 		空間パターンについて理解できる.			
10週 0.人口語の	5週	5. ラスターモデル	5. ラスターモデルによる分析		地利用の集塊性の分析,マルコフ連鎖による土地利用			
7. 空間補間(1) ついて理解できる。 20 20 3. 空間補間(2)	6週	6. 人口推計	6. 人口推計		人口推計の必要性および推計のための各種モデル, コーホート法について理解できる.			
9週 9. 空間的自己相関 空間データの特質としての空間的自己相関と代表的な 指標であるモランのI統計量について理解できる。	7週	7. 空間補間(1)	7. 空間補間(1)		空間補間の目的および最近隣距離法,逆距離加重法について理解できる.			
10週 10. 空間回帰モデル 指標であるモランのI統計量について理解できる. 線形回帰モデルと空間回帰モデル (空間ラグモデル , 空間誤差モデル , 地理的加重回帰モデル) の基礎的な事項について理解できる. 11週 11. ネットワーク分析 グラフ理論に基づくネットワークの性質およびダイクストラ法について理解できる. 12週 12. スペースシンタックス理論 空間構成を定量的に評価する手法であるスペースシンタックス理論について理解できる. 13週 13. 人口の分析 人口の統計的分布や地理的分布に関する分析手法を理解できる. 14週 14. 経済の分析 南圏分析や用地の立地評価に関する分析手法を理解できる. 15週 15. 土地利用の分析 土地利用変化の解析手法について理解できる. 15週 期末試験 土地利用変化の解析手法について理解できる. 16週 期末試験	前期 8週	8. 空間補間(2)	8. 空間補間(2)					
10週 10. 空間回帰モデル , 空間誤差モデル, 地理的加重回帰モデル) の基礎的な事項について理解できる。		9. 空間的自己相関						
2ndQ 11週 11. ネットワーク分析 グラフ理論に基づくネットワークの性質およびダイクストラ法について理解できる。 空間構成を定量的に評価する手法であるスペースシンタックス理論について理解できる。 13週 13. 人口の分析	9週	 	10. 空間回帰モデル		一, 空間誤差モデル, 地理的加重回帰モデル) の基礎的			
12週 12. 人ペースタンタックス理論 タックス理論について理解できる。					な事項について	理解できる.		
13.0 13. 人口の分析 解できる。	10)				グラフ理論に基	፲理解できる. 基づくネットワークの性質およびダイク		
14. 程序の分析 きる。	10说	11. ネットワーク	分析		グラフ理論に基 ストラ法につい 空間構成を定量 タックス理論に	できる. はづくネットワークの性質およびダイク いて理解できる. はいに評価する手法であるスペースシンでいて理解できる.		
16週 _{期末試験}	10划 11划 2ndQ 12划	11. ネットワーク 12. スペースシン	分析		グラフ理論に ストラ法につい 空間構成を定量 タックス理論に 人口の統計的分	- 理解できる. まづくネットワークの性質およびダイク) て理解できる. 量的に評価する手法であるスペースシン - ついて理解できる.		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標	10년 11년 2ndQ 12년 13년	11. ネットワーク 12. スペースシン 13. 人口の分析 14. 経済の分析	分析 タックス理論		グラフ理論に ストラ法につし 空間構成を定量 タックス理論に 人口の統計的分解できる。 商圏分析や用地 きる。	理解できる. はづくネットワークの性質およびダイク いて理解できる. 動に評価する手法であるスペースシン ついて理解できる. か布や地理的分布に関する分析手法を理解で 動の立地評価に関する分析手法を理解で		
	10划 11划 2ndQ 12划 13划 14划 15划	11. ネットワーク 12. スペースシン 13. 人口の分析 14. 経済の分析 15. 土地利用の分	分析 タックス理論		グラフ理論に ストラ法につし 空間構成を定量 タックス理論に 人口の統計的分解できる。 商圏分析や用地 きる。	理解できる. はづくネットワークの性質およびダイク いて理解できる. 動に評価する手法であるスペースシン ついて理解できる. か布や地理的分布に関する分析手法を理解で 動の立地評価に関する分析手法を理解で		
分類 分野 学習内容 学習内容の到達目標 到達レベル 授業週	10划 11划 2ndQ 12划 13划 14划 15划	11. ネットワーク 12. スペースシン 13. 人口の分析 14. 経済の分析 15. 土地利用の分 期末試験	分析 タックス理論 析		グラフ理論に ストラ法につし 空間構成を定量 タックス理論に 人口の統計的分解できる。 商圏分析や用地 きる。	理解できる. 述づくネットワークの性質およびダイク いて理解できる. 動に評価する手法であるスペースシン ついて理解できる. 分布や地理的分布に関する分析手法を理 の立地評価に関する分析手法を理解で		
	2ndQ 12以 13以 14以 15以 16以 Eデルコアカリキュ	11. ネットワーク 12. スペースシン 13. 人口の分析 14. 経済の分析 15. 土地利用の分 期末試験 5ムの学習内容と到途	分析 タックス理論 析 を 1		グラフ理論に ストラ法につし 空間構成を定量 タックス理論に 人口の統計的分解できる。 商圏分析や用地 きる。	理解できる. ぶづくネットワークの性質およびダイク いて理解できる. いに評価する手法であるスペースシンについて理解できる。 か布や地理的分布に関する分析手法を理 の立地評価に関する分析手法を理解で の解析手法について理解できる。		
平価割合	2ndQ 12以 13以 14以 15以 16以 Eデルコアカリキュ	11. ネットワーク 12. スペースシン 13. 人口の分析 14. 経済の分析 15. 土地利用の分 期末試験 5ムの学習内容と到途	分析 タックス理論 析 を 1	Juliu and	グラフ理論に ストラ法につし 空間構成を定量 タックス理論に 人口の統計的分解できる。 商圏分析や用地 きる。	理解できる。 はづくネットワークの性質およびダイク いて理解できる。 動に評価する手法であるスペースシン こついて理解できる。 か布や地理的分布に関する分析手法を理解で 動の立地評価に関する分析手法を理解で の解析手法について理解できる。		

	期末試験	課題	合計
総合評価割合	50	50	100
専門的能力	50	50	100